

2019  
BEST  
FACULTY  
MEMBER



*University of Tsukuba*

# 2019 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	竹谷 悦子	教授	.....	1
人文社会系	常木 晃	教授	.....	2
ビジネスサイエンス系	立本 博文	教授	.....	3
数理物質系	重川 秀実	教授	.....	4
数理物質系	末益 崇	教授	.....	5
数理物質系	西堀 英治	教授	.....	6
数理物質系	山本 洋平	教授	.....	7
システム情報系	鈴木 健嗣	教授	.....	8
システム情報系	福井 和広	教授	.....	9
生命環境系	鈴木 石根	教授	.....	10
生命環境系	林 久喜	教授	.....	11
生命環境系	松井 圭介	教授	.....	12
人間系	大塚 泰正	准教授	.....	13
人間系	川口 純	助教	.....	14
体育系	真田 久	教授	.....	15
体育系	本田 靖	教授	.....	16
体育系	前田 清司	教授	.....	17
体育系	福田 崇	准教授	.....	18
芸術系	貝島 桃代	准教授	.....	19
医学医療系	新井 哲明	教授	.....	20
医学医療系	櫻井 武	教授	.....	21
医学医療系	佐藤 幸夫	教授	.....	22
図書館情報メディア系	歳森 敦	教授	.....	23
計算科学研究センター	北原 格	教授	.....	24
生存タ 付ミクス研究センター	小林 悟	教授	.....	25
生存タ 付ミクス研究センター	澁谷 彰	教授	.....	26

# 竹谷 悦子 教授

**所属** 人文社会系

**専門分野** アメリカ文学・  
文化研究



## — 業績 —

アメリカ文学・文化研究に「ブラック・パシフィック」と呼ばれる地政学的拡がりにおいて俯瞰的な視点を持つ新しい研究領域を開拓し、国際的に活躍している。研究成果は世界トップレベルの米国・英国の大学出版局から出版され、海外の学会で基調パネリストとして登壇するなどして、国内外から高い評価を受けている。「英語で授業ができる教員養成のためのTA・TF海外研修プログラム」のカリキュラムを開発し、次世代型の大学教員の育成に寄与している。

## 略歴

ジョージ・ワシントン大学大学院博士課程修了後、成蹊大学文学部講師、メリーランド大学客員教授、ハワイ大学客員研究員等を経て、平成20年5月より現職。

# 常木 晃 教授

---

所属 人文社会系

専門分野 考古学



## — 業績 —

シリア・イラン・イラクの考古学や文化財保全に関する我が国の代表的研究者として、「現代文明の基層としての古代西アジア文明」（新学術領域研究（2012-16））で実績を残し、新たな新学術領域研究「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」（2018-22）の採択に貢献した。編著書に *Ancient West Asian Civilization* (Springer), *The Emergency of Pottery in West Asia* (Oxbow), *A History of Syria in One Hundred Sites* (Archaeopress) などがある。

## 略歴

東海大学文学部講師、筑波大学歴史・人類学系講師、同助教授等を経て、平成17年4月より現職。

# 立本 博文 教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 経営学  
経営戦略論



## — 業績 —

経営戦略論を専門とする。著書『プラットフォーム企業のグローバル戦略：オープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム』（有斐閣）は、2018～2019年にかけて国内最大の経営学系学会である組織学会からの受賞を含む5件の学会賞・財団協会賞を受賞しており、学术界及び産業界から高い評価を受けている。日本経済新聞に『オープン&クローズ戦略を考える(全10回)』（2018年7月）、『GAFAと日本企業』（2019年8月）を掲載するなど、社会へ向けた研究成果の情報発信にも積極的に取り組んでいる。

## 略歴

東京大学経済学部ものづくり経営研究センター助教、兵庫県立大学経営学部准教授、筑波大学ビジネスサイエンス系准教授等を経て、平成28年4月より現職。

# 重川 秀実 教授

**所属** 数理物質系

**専門分野** 極限計測  
ナノサイエンス  
表面科学



## — 業績 —

走査プローブ顕微鏡法、量子光学を核とした極限計測技術の開発と応用に取り組み、表面科学や分子科学の分野で多くの成果を挙げ、ナノスケール科学の発展に大きく貢献してきた。科研費特別推進研究、国内外での招待講演、多機関との共同研究等を通じ、当該分野を牽引している。また、関連学会の副会長やフェロー、代議員、評議員、国際会議の組織委員長、プログラム委員長等を務め、社会貢献活動でも大きな実績を挙げている。2019年春には紫綬褒章を受章。

## 略歴

東京大学工学部助手、筑波大学物質工学系講師、同助教授等を経て、平成15年1月より現職。

# 末益 崇 教授

---

**所属** 数理物質系

**専門分野** 応用物性  
光工学・光量子科学



## — 業績 —

新規太陽電池材料、スピントロニクス材料、熱電材料の3分野において研究を推進し、顕著な研究業績を挙げている。科研費基盤研究（A）を2期連続して獲得するなど大型研究資金を獲得し、2018年度において26編の研究論文を出版した。それぞれの分野でその研究成果は高く評価されており、特にフェリ磁性体 $Mn_4N$ 細線で、スピン移行トルクのみで世界最速の磁壁移動を達成した。

## 略歴

筑波大学物質工学系助手、同講師、同助教授等を経て、平成22年4月より現職。平成31年4月～、筑波大学研究戦略室長。

# 西堀 英治 教授

**所属** 数理物質系

**専門分野** 量子ビーム科学  
結晶工学  
ナノ構造物理  
計算科学



## — 業績 —

最先端放射光を利用したエネルギー物質の構造科学研究に従事している。2016年3月から筑波大学海外教育研究ユニット招致「オーフス大学材料結晶学センター」の受入教員として、国際的な研究活動を展開している。ユニット招致と数理物質科学研究科の「つくば共鳴教育システム」など教育プロジェクトとの連携や、TIAサマーレクチャーなどにより、大学院生の国際的な教育にも尽力した。

## 略歴

名古屋大学工学研究科助手、同講師、同助教授、理化学研究所放射線科学総合研究センター理研RSC-リガク連携センター長等を経て、平成26年5月より現職。

# 山本 洋平 教授

所属 数理物質系

専門分野 機能物性化学



## — 業績 —

有機分子集合体の分野を専門とする。特に、光機能高分子の自己組織化においてマイクロ球体からの光共振器特性を発見し、球体間の光エネルギー移動や光励起のレーザー発振など、新しい光機能材料の開発に貢献する優れた成果を挙げている。文部科学大臣若手科学者賞（2014）、レーザー学会奨励賞（2019）など若手研究者に対する著名な賞を受賞した。研究成果に基づきベンチャー企業を設立するなど、その活躍はアカデミックの枠にとどまらない。

## 略歴

科学技術振興機構ERATO相田ナノ空間プロジェクト研究員、筑波大学大学院数理物質科学研究科准教授等を経て、平成30年2月より現職。

# 鈴木 健嗣 教授

所属 システム情報系

専門分野 知能機械学



## — 業績 —

人支援技術・ロボティクス・人間拡張技術にわたる先進的な人と機械の一体化に関する人工知能・サイバニクス研究を行っている。国内外で多数の受賞、大型外部資金の獲得に加え、学内外との医工融合研究を大きく進展させ、事業化に向けてスタートアップ企業を設立している。IEEEのロボティクスソサエティにおいて、アジア・オセアニア地区代表としてAdCom Memberに選ばれるなど、その成果は国際的にも高く評価されている。

## 略歴

早稲田大学理工学部助手、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師、同システム情報系准教授等を経て、平成28年4月より現職。平成29年10月～現在、サイバニクス研究センター長。

# 福井 和広 教授

**所属** システム情報系

**専門分野** 知能ロボティクス  
知覚情報処理  
リハビリテーション科  
学・福祉工学



## — 業績 —

部分空間法に関する国際的な権威として、その理論基盤の整備・拡張を英国とスウェーデンとの国際共同研究などを通して積極的に進めている。2010年から連続で4件の科研基盤B(代表)と3件の挑戦的萌芽研究(代表)など、外部資金も積極的に獲得している。一連の研究成果が認められ、2つの有力国際論文雑誌のGuest editorを勤めている。また、人工知能科学センター副センター長として、同センターの立ち上げ及び運営に尽力している。

## 略歴

株式会社東芝関西研究所研究員、同研究開発センター主任研究員、筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授等を経て、平成24年5月より現職。

# 鈴木 石根 教授

**所属** 生命環境系

**専門分野** 植物分子生理学  
分子生物学  
植物代謝工学  
環境科学



## — 業績 —

植物分子生理学を専門とする。2018年度は、Scientific Reports等への学術論文の公表、科研費基盤研究(A)をはじめ共同研究・受託事業等計10件の外部資金の獲得など、研究面で多くの実績を挙げた。つくば3Eフォーラム議長及び筑協つくば3Eフォーラム委員会委員長を務める。公正研究推進機構(APRIN)中等教育向け倫理教材作成委員、つくばSKIPアカデミー及び筑波大学未来を作る科学技術人材育成プログラム(GFEST)のプログラムリーダーとして、中高校生の教育・研究支援活動にも取り組んでいる。

## 略歴

筑波大学大学院生命環境科学研究科講師、同准教授、同教授等を経て、平成23年10月より現職。平成28年4月～、学長補佐。平成30年4月～、国際連携持続環境科学専攻長。

# 林 久喜 教授

**所属** 生命環境系

**専門分野** 作物生産科学  
環境技術・環境負荷低減  
科学教育



## — 業績 —

研究では、これまでのわが国のソバ研究における業績を高く評価され、日本農業工学会におけるフェローに任命されている。本学の国際化に対応した教育活動並びに筑波大学への入学につなげる高校生への教育支援の積極的推進、大学間交流協定の世話人、JICAとの連携による国際協力理解講座の担当など、教育面での貢献も著しい。また、附属駒場中学校および高等学校の校長として、大学附属として特色ある学校運営を行っている。

## 略歴

長野県中信農業試験場技術吏員、筑波大学大学院生命環境科学研究科助教授等を経て、平成23年4月より現職。平成26年4月～現在、附属駒場中学校長・附属駒場高等学校長。

# 松井 圭介 教授

**所属** 生命環境系

**専門分野** 観光学  
人文地理学  
地理学  
宗教学  
地域研究



## — 業績 —

我が国の文化地理学、特に宗教地理学の第一人者である。近年では、ツーリズムの進展にともなう場所の資源化と消費という視点から、アニメなど各種メディアで表象された聖地、教会群の世界遺産化といったテーマで研究を深めており、その成果は地理学界外からも非常に高く評価されている。留学生の受け入れを積極的に行い、本学の国際化にも貢献している。学内運営面では、地球学類長として入試やカリキュラムの改革に取り組んだ。

## 略歴

筑波大学地球科学系講師、筑波大学生命環境科学研究科准教授等を経て、平成25年4月より現職。平成28年4月～現在、生命環境学群地球学類長。

# 大塚 泰正 准教授

所属 人間系

専門分野 臨床心理学



## — 業績 —

職場のメンタルヘルスならびに組織や個人を活性化させるための介入研究を中心に、臨床心理学、産業保健心理学領域での研究を精力的に推進している。2018年度は、国際誌2編、国内誌4編に論文を発表した他、分担執筆3編の著書も公刊した。研究代表者として「セクシュアル・マイノリティへの適切な対応を促進する産業保健スタッフ向け研修の開発」（科研費基盤研究(B))を進めている。

## 略歴

独立行政法人労働安全衛生総合研究所研究員、広島大学大学院教育学研究科講師、同准教授等を経て、平成27年4月より現職。

# 川口 純 助教

---

所属 人間系

専門分野 国際教育開発論



## — 業績 —

アフリカの教育を対象とする研究に取り組み、国際協力・教育開発の研究と実践を精力的に進めている。教育学（国際教育）学位プログラムの授業を担当し、学生の学習状況について他担当教員と情報共有を継続し、授業改善に取り組んだ。同プログラムのカリキュラム開発や学生指導・研究指導の体制づくりにおいては中心的な役割を果たした。また、外務省のインクルーシブ教育プロジェクトの専門家やJICAの研修プログラムの講師を務めるなど、社会貢献も活発に行っている。

## 略歴

JICA研究所研究員、大阪大学大学院人間科学研究科助教等を経て、平成27年9月より現職。

# 真田 久 教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ人類学



## — 業績 —

スポーツ人類学を専門とする。2018年には単著『嘉納治五郎オリンピックを日本に呼んだ国際人』（潮文庫）を発行した他、大河ドラマ「いだてん」を始めとする金栗四三関連報道・歴史考証、多数の招待講演など、顕著な業績を挙げた。東京2020大会組織委員会参与のほか、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業を主催する。つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)アカデミー長を務め、学内運営にも尽力している。

## 略歴

福岡教育大学教育学部助教授、筑波大学体育科学系講師、同助教授等を経て、平成20年7月より現職。平成24年4月～平成30年3月 体育専門学群長。

# 本田 靖 教授

---

所属 体育系

専門分野 疫学・予防医学



## — 業績 —

疫学・予防医学を専門とする。一流国際誌への論文発表15編以上、招待講演他など、地球温暖化による健康問題に関する国際的業績が顕著である。Google Scholarによる自身論文の年間引用回数は1500を超える。鹿屋体育大学との共同専攻（修士）であるスポーツ国際開発学専攻において専攻長を務め、学内運営にも尽力している。

## 略歴

東京大学医学部助手、アラバマ大学バーミングハム校研究員、国立環境研究所主任研究員、筑波大学体育科学系助教授等を経て、平成18年4月より現職。

# 前田 清司 教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ科学



## — 業績 —

スポーツ医学に関する研究成果を国内外に数多く発信し、スポーツ医学の発展に大きく貢献した。これまでに権威ある一流国際学術誌に数多くの論文を公表し、高い評価を受けた。2018年度にAm J Clin Nutr. 誌に掲載された認知機能に関する研究は本学よりプレスリリースもされ、大きく注目された。学会活動では、スポーツ医学関係で国内最大の学会である日本体力医学会でのシンポジストをはじめ、国内外の学会で多数の研究発表を行った。

## 略歴

筑波大学体育系講師、同准教授等を経て、平成25年11月より現職。平成30年4月～現在、人間総合科学研究科スポーツ医学専攻長。平成29年9月～現在、日本体力医学会理事。

# 福田 崇 准教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ医学



## — 業績 —

日本スケート連盟スピードスケート日本代表チーム医・科学サポートグループメンバーとして、2018年の平昌オリンピックでのメダル獲得に大きく貢献し、秩父宮記念スポーツ医・科学賞の奨励賞を受賞した。特にパシュート種目において、滑走軌道とスピード、および空気力学的分析のみならず、現場での選手のコンディショニングサポートが効果を上げ、初の金メダル獲得という快挙につながった。

## 略歴

チームカナダ障害者バレーボール専属アスレティックセラピスト、筑波大学大学院人間総合科学研究科助手、国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部、筑波大学体育系助教等を経て、令和2年1月1日より現職。

# 貝島 桃代 准教授

所属 芸術系

専門分野 建築  
都市空間  
空間構成



## — 業績 —

建築、都市空間を専門とする。ヴェネチア（イタリア）で開催された「第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」において、「日本館」のキュレーターを務めた。フィールドワークにより街中の建物を観察し、そこにある現代人の暮らしや都市の現実をドローイングし、「建築の民族誌」と題するガイドブックとして刊行した。広く一般に対して使用者の視点で建築の本質に議論を投げかけ、国内外に大きな反響を呼び起こした。

## 略歴

筑波大学芸術学系講師、筑波大学大学院人間総合科学研究科講師、同准教授等を経て、平成23年10月より現職。

# 新井 哲明 教授

**所属** 医学医療系

**専門分野** 精神神経科学  
神経解剖学・神経病理学



## — 業績 —

県内12の地域型認知症疾患医療センターを統括し、緊密な連携を構築することによって茨城県内の認知症医療の発展に貢献してきた。認知症診療に携わるかかりつけ医および専門医の育成や一般市民への啓蒙活動を広く行ってきた。軽度認知障害の人を対象に実施している進行予防プログラムは、先進的なプログラムとして全国から注目されている。全国で初めて認知症疾患医療センターの連携による災害時の高齢者支援のシステムを構築した。

## 略歴

東京都立松沢病院、東京都精神医学総合研究所、筑波大学大学院人間総合科学研究科講師、筑波大学医学医療系講師、同准教授等を経て、平成28年3月より現職。

# 櫻井 武 教授

所属	医学医療系
専門分野	視床下部 神経ペプチド 摂食行動 睡眠 覚醒 代謝・体温制御



## — 業績 —

新学術領域研究「意志動力学の創成と推進」の領域代表を勤め、研究領域の運営に尽力している。アウトリーチ活動として一般向けの新書『「こころ」はいかにして生まれるのか』（講談社）を出版したほか、インターネット（ニコニコ超会議）での講義や、IIS来訪高校生向けの講義、つくば市主催市民講座を行った。学内運営活動では、国際統合睡眠医科学研究機構の副機構長を勤め、機構長を補佐するとともに同機構の発展に貢献した。

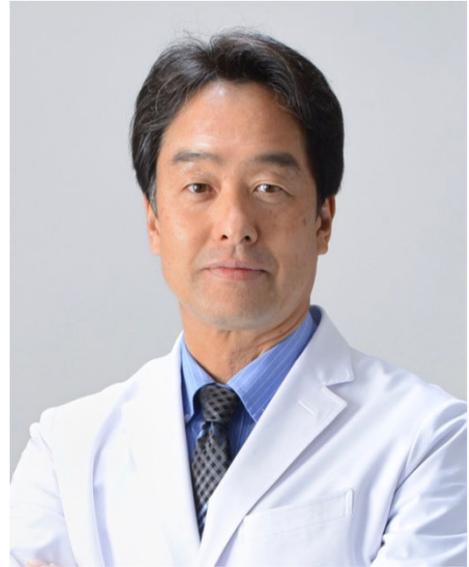
## 略歴

筑波大学基礎医学系講師、同助教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授、金沢大学医薬保健研究域医学系教授等を経て、平成28年4月より現職。

# 佐藤 幸夫 教授

所属 医学医療系

専門分野 呼吸器外科



## — 業績 —

肺癌に対する低侵襲手術を導入し、その精度向上および教育に努めており、昨年からロボット手術も導入している。がん診療連携拠点病院を中心として県内施設にグループ員を派遣し、低侵襲手術の普及と均霑化にも貢献している。物質材料研究機構と手術用接着剤開発の共同研究を行いAMED研究費を獲得しており、医師主導治験の準備を進めている。以上のように、呼吸器外科診療の精度向上および普及を推進している。

## 略歴

ブリティッシュコロンビア大学博士研究員、筑波大学臨床医学系講師、自治医科大学医学部講師、同準教授等を経て、平成21年4月より現職。

# 歳森 敦 教授

**所属** 図書館情報メディア系

**専門分野** 都市計画・建築計画  
図書館情報学  
人文社会情報学



## — 業績 —

都市計画・建築計画の視点から図書館情報学分野の研究を行っている。TWINS（教育情報システム）/KdB（科目データベース）やTRIOS（研究者情報システム）などの学内業務システムの仕様策定・導入と運用に携わり、大学全体にとって効率的な業務システムの構築ならびに業務改善に従事してきた。学内の教育改革については、実務・システム面の専門家として貢献するとともに、学類長の立場からも教育のあり方について議論に加わっている。

## 略歴

図書館情報大学図書館情報学部助手、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科准教授等を経て、平成23年10月より現職。平成28年4月～現在、情報学群知識情報・図書館学類長。

# 北原 格 教授

**所属** 計算科学研究センター

**専門分野** 計算メディア  
コンピュータビジョン  
複合現実感



## — 業績 —

多視点画像から復元した3次元情報を用いて任意の見え方を再現する自由視点映像の研究に取り組み、撮影から提示を実時間で実行可能なライブ中継システムを世界で初めて実現した。計算メディアカルサイエンス事業において医計連携を推進し、3D手術ナビゲーション等の研究分野を開拓している。日本VR学会SIG-MR研究会副委員長、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ技術会議幹事、論文誌編集委員会幹事等、学外における研究コミュニティへの貢献も活発に行っている。

## 略歴

筑波大学先端学際領域研究センター助手、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）研究員、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師、准教授等を経て、令和元年8月より現職。

# 小林 悟 教授

---

**所属** 生存ダイナミクス研究  
センター

**専門分野** 発生生物学



## — 業績 —

科研費（新学術領域研究）の領域研究代表者として成果のとりまとめを行っており、またショウジョウバエにおける生殖細胞形成機構に関する研究の発展に貢献した。大隅基礎科学創生財団理事や学会誌編集委員、自然科学研究機構のセンター運営委員として基礎科学の振興にも努めてきた。生存ダイナミクス研究センターの運営にも尽力している。

## 略歴

筑波大学生物科学系講師、自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授等を経て、平成27年4月より現職。

# 澁谷 彰 教授

**所属** 生存ダイナミクス  
研究センター

**専門分野** 免疫学  
血液内科学



## — 業績 —

免疫を制御する受容体について研究を行い、様々な受容体を同定するとともに、それらの免疫制御における機能を個体レベルで解明している。「抑制性免疫受容体による自然免疫応答の制御機構の解明」（科研費基盤研究（S））等、顕著な業績を挙げている。これらの研究をもとに起業するなど、産学連携にも貢献している。ヒューマンバイオロジー学位プログラムリーダーとして、プログラムの評価「S」獲得に大きく貢献した。

## 略歴

岡山大学講師、筑波大学医学医療系教授等を経て、平成28年4月より現職。平成26年4月～現在、ヒューマンバイオロジー学位プログラムリーダー。令和元年10月～現在、革新的創薬開発研究センター長。



筑波大学  
*University of Tsukuba*

筑波大学BEST FACULTY MEMBER  
表彰制度に基づき、2018年度の  
教育研究活動において、極めて優れた  
業績を上げたと認められ、表彰された  
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先  
国立大学法人筑波大学  
企画評価室  
TEL 029-853-2047  
Mail [ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp](mailto:ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp)